

健やか親子表彰 ―団体部門 優秀賞―

豊田市男性保育師連盟

パパが子育てを楽しめば家族が笑顔になる！ ～乳幼児期のパパ達と歩んだ成長と次世代へ紡ぐ物語～

取組の目的・背景

活動の目的は、『父親の育児支援』からの『子どもの笑顔を増やす』です。対象は0～6歳の子どもを持つ父子です。2005年の活動当時は、“イクメンブーム”が来る前の活動でした。(団体設立からの活動は2006年)世の中はママが子育てをすることがまだ主流で、たくさんのママ講座が溢れていました。そして、父親の育児講座はどこにも存在しませんでした。

そんな中、「パパ達が生育てに積極的に関わり、パパが生育て楽しめば家族が笑顔になるのではないか?」と考え、父親の育児支援に特化した自主講座から開始しました。男性、父親からアプローチしていく家族のカタチを常に意識していました。

具体的な取組内容

活動の実施当初は、自主活動でした。市民活動センターへ団体の登録を行い、活動場所を作りました。私たちは保育士でしたが、活動当時は行政の理解が得られず職場を使うことができませんでした。

そんな中、「男性保育者×パパ」の活動が徐々に地域に浸透していき、行政の男女共同参画センターや自治体の交流館から講師として招かれるようになり、活動の幅が一気に広がっていきました。

さらに、2008年に愛知県の委託事業として選定され、私たちの看板イベントである『子育て戦隊パレンジャー』が誕生しました(豊田市の父子100組以上が参加)。以後、豊田市で大人気のパパ講座として市の後援も頂き、現在も続いています(コロナ禍を除く)。

この子育て戦隊パレンジャーの事業は、2008年に単発講座からスタートしました。2010年に連続性のある事業へと変化させました。60組の父親(現在は50組の制限)が一年を通し、交流をし、横のつながりを作っていくというものです。パレンジャーイベントは全5回となっていますが、テーマを分けています。第1回目は『親子遊び』、第2回目は『水遊び』第3回目は『運動会』、第4回目が『芸術活動』、第5回目はパパ達が主催する『男祭り』です。

その成果もあり、パレンジャーを卒業したパパ達から『男塾』というチームが生まれ、活動が続いています。他にも、豊田市の祭りである豊田おいでん祭りに『子育て戦隊パレンジャー』として、卒業生の父子が毎年参加を続けています。どれも参加者だったパパ達の自主グループになっています。

現在、豊田市男性保育師連盟は、パパ講座の参加者のパパ達がメンバーに加わり、多様なメンバー構成となっています。先輩パパ達が現代のパパ達へ、『子育ての楽しさ』を伝える。そんな流れが当たり前のようになっています。

今後の展開としては、まずは『後進の育成』を第一に考えてすでに動いています。いつも地域に根ざした『持続可能な活動』であり続けることが大切だと考えています。



▲豊田市の子育て支援センターからの依頼で毎年行っている未就園(0～2歳児)の父子が対象の講座。豊田市の子育て支援センターの大きないくつかの拠点で毎年行っている。



▲子育て戦隊パレンジャー 2回目『パパラトゥーン』の様子。全員が白シャツを着て、チーム戦に別れて対決。季節ならで楽しめる内容も魅力の一つである。

健やか親子表彰 優秀賞

受賞者の声 担当者:末広 俊一

取組を始めた経緯は何ですか？

初めはマイノリティーで、職場で自分らしさが発揮できない男性保育士の自己研鑽の活動でした。当時、男性保育士が職場ではなかなかできなかったギター、ブレイクダンス、空手等を、父親の育児支援という社会貢献を通じて思いきり楽しんで活動をしていました。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

『男性保育士』×『パパ』は目新しく互いにマッチングするキーワードでした。その中に「家庭でもできる簡単親子遊び」「保育の教材を使った子どもに親しみのある遊び」「男ならではのダイナミックな遊び」を意図的に入れ込んでいたのも工夫した点です。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

行政の理解が得られず、『父親の育児支援』の活動自体に否定的だったことです。自分たちの職場で活動をすることもできませんでした。また、当時は父親の育児は認知度が低く、チラシの配布等も園で許可がおりず講座の集客に苦労しました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

同じ行政の男女共同参画センターがバックアップしてくれるようになりました。そこから、講師として地域の交流館や子育て支援センターから招かれるようになり、活動が飛躍的に広がりました。腰の重たいパパを、ママ達が無理やり申込み参加させるのが当時のよく見られる光景でした。

今後の展望・課題は？

まずは『後進の育成』を第一に考えて既に動いています。当時のメンバーはほとんどが40代に入り、現在は20代30代のメンバーへバトンを繋いでいます。そして、この活動が地域に根ざした『持続可能な活動』であり続けるための仕組みを構築していきます。

評価委員からのコメント

男性保育者同士の活動が、行政や地域子育て支援拠点でのパパ講座に発展、男性による男性のための循環型パパ支援の活動に広がっていることに敬意を表します。何よりもパパ自身が楽しみ、こどもの笑顔が広がる取組であり、男性育休が40%を超える時代のなか、さらに保育士の専門性を活かした活動に期待を寄せています。

NPO法人 子育てひろば全国連絡協議会理事長 奥山 千鶴子

ご受賞おめでとうございます。ご自身の経験をもとに父親への育児支援に注力を注ぎ、活動されています。子育て世代の方々が中心になって保育の視点で子育ての楽しさを伝え、信頼と実績を得ながら継続的に活動できるように後進の育成も行っており、とても素晴らしい取り組みです。今後の広がりに期待しております。

成城木下病院 師長 落合 直美

男性保育士ならではの視点で父親の育児参加を自然に促し、家族の笑顔を広げてきた点が素晴らしいです。豊田市から県内外へと広がる長年にわたる継続的な活動は、次世代の父親たちへの良い手本となっており、今後のさらなる発展を期待します。

帝京大学医学部小児科 主任教授 三牧 正和

受賞おめでとうございます!「パパ達が子育てに積極的に関わり、パパが生育て楽しめば家族が笑顔になるのではないか?」といった考えから始まり、父親たちの取り組む育児支援活動がとても魅力的です。父親のネットワークがつながり、育児だけでなく地域の取り組みとしても評価できる素晴らしい活動と思いました。

北海道医療大学 心理科学部 教授 柳生 一自